

西洋文化史概説(2)－51 第二回小テスト

次の問題文 1～50 の正誤を判断し、正しければ a、誤っておれば c を別紙解答用紙にマークせよ。

1. ゲルマン人の居住地はスカンディナヴィア半島北部からグリーンランド南部にかけての極地地方である。
2. 最初にローマ人と接触したゲルマン人はキンブリ族とテウトニ族であった。
3. アウグストゥスの時代ローマ軍はトイトブルグの戦いで大敗北を喫し、帝国の防衛線をライン川に後退させた。
4. ゲルマン人出身者として帝国に仕えた高官にはスティリコやウェルキングトリクスがいる。
5. フン族が西ゴート人を征服し、驚いた東ゴート人がドナウ川を越えてローマ帝国領内に逃避したことがゲルマン民族の大移動の始まりとされる。
6. アドリアノーブルの戦いで東皇帝のヴァレンスは西ゴート人と戦って敗死した。
7. 410年、東ゴートのアラリックはローマを略奪して、帝国を震撼させた。
8. 東ゴート王国はテオドリック大王によって建国され、ラヴェンナを都とした。
9. 西ゴート王国は南フランスのトロサを都としていたが、北フランスのブルグンド王国に圧迫されてスペインのトレドに都を移した。
10. ヴァンダル王国は北アフリカのカルタゴを都としたが、ビザンツ帝国のユスティニアヌスによって滅ぼされた。
11. 西ゴート王国は 711 年にフランク王国に征服された。
12. フランク王国が発展していく原因の一つにフランク人がカトリックに改宗したことが指摘されている。
13. スペインに侵入したイスラム教徒はフランク王国への進出を企て、732年のトゥール・ポワティエの戦いでフランク王カール＝マルテルに敗れた。
14. 小ピピンはメロヴィング朝の王を廃位して、フランク王国の王に選ばれた。
15. ランゴバルトは北イタリアのラヴェンナを都としたが、ローマ教皇と対立したことがフランク王国の介入を招いた。
16. 800年のクリスマスの日、フランク王カールは教皇から西ローマ皇帝の冠を授けられた。
17. フランク王国は巡察使を置いてオーストリアやスペインなどの辺境地域の治安を担当させた。
18. ノルマン人のロベール＝ギスカルは地中海に遠征して両シシリー王国を建国した。
19. ノルマンディー公国の都はナントである。
20. 主従関係としての封建制の起源のひとつで従士制度はローマ起源とされている。
21. 君主は臣下に封土などを与え、臣下は君主に軍役や助言などの義務を負った。
22. 古典荘園とは領主直営地を欠く荘園の形態を指す。
23. 純粋荘園は農民に対する領主裁判権がその基礎としていた。
24. 古典荘園の場合、農民が負担する賦役は週賦役と臨時賦役から成り立っている。
25. 託當地を保有している農民や都市民は領主に対して死亡税や結婚税などを負担した。
26. 穀草式農法はコムギを栽培した後、数年間の休耕によって畑の地力回復を図る農法である。
27. 三圃制農法は 19 世紀頃までヨーロッパで行なわれた。

28. 繫駕法、蹄鉄、水車の使用は中世の農業革命の産物である。
29. フランスで領主直営地が解体していくのは18世紀のフランス革命の時である。
30. 百年戦争中に起きたフランスのワット=タイラーの乱で、「イブが耕し、アダムが紡いだとき領主は何処にいたのか」と説教僧のエチエンヌ=マルセルが説いた。
31. 11世紀以降になるとイタリア諸都市は北方や東方との交易で繁栄するようになる。
32. イタリア諸都市は東方から胡椒や肉桂などの香辛料や明礬、赤土などを輸入した。
33. ドイツ商人はアルプスを越えてイタリアに銀や奴隷、毛織物や藍などをもたらした。
34. 1358年、リューベックやハンブルク、ブリュージュ、ベルゲンの4都市がハンザ同盟を結成した。
35. 最盛期のハンザ同盟にはおよそ百の都市が参加し、ロンドンやノブゴロドなどに商館を置いた。
36. バルト海貿易が取り扱った交易品には毛皮や木材、タラなどの魚介類がある。
37. 南ドイツの諸都市は銀鉱山の開発、イタリアや東欧、北欧との交易で栄えた。
38. シャンパーニュ地方では関税が撤廃されたことから12~13世紀に大市が開かれ、各地から商人が集まった。
39. 中世都市の起源としてフォブールと呼ばれる封建領主の館がある。
40. 10~13世紀のツunft闘争で商人たちは自治権を獲得していった。
41. 都市の自治権は大商人組合によって独占された。
42. ノルマンディー公ギョーム(ウィリアム)のイングランド征服の結果、ノルマンディー、アンジュー、ブルターニュ、アキテーヌを封建領として支配する大封建領主がフランスに出現した。
43. ノルマン朝の血統が断絶すると、アンジュー伯のアンリがその大封建領とイングランドを継承した。
44. フランス王のフィリップ4世はアンジュー家のジャン(ジョン)からその封建領を没収した。
45. イギリス王のエドワード3世はヴァロア家のフィリップ(フィリップ6世)のフランス王即位に異議を唱えて宣戦した。
46. イギリス軍は百年戦争の初期クレシーとアザンクールにおいてフランス軍を破り、優位に立った。
47. イギリス軍優勢の背景に長弓を駆使するイギリスの民兵隊があった。
48. フランス王シャルル5世は王領地以外からの税の徴収や常備軍の創設によって体勢を立て直すのに成功した。
49. ブルゴーニュ派と手を組んだイギリス軍は攻勢に転じ、オルレアンを占領して王太子シャルルを脅かした。
50. 百年戦争はフランス軍によるブルターニュ占領をもって終了した。